

## はじめに

学芸文化課文化財保護主事であった福田一志氏が亡くなったのは2009年10月18日のことであった。当日行われた教育庁レクリエーションで少し汗をかいたあと多少飲んだ。その後ご機嫌で帰宅し就寝したが、朝には既に息をしていなかったという。享年53歳の若さだった。

全てに経験豊富であったため、本庁での彼の双肩にかかる業務は多く、発掘調査や各種開発事業、あるいは県下市町村文化財担当者との協議・調整等で忙殺される業務に加え、門外漢だった国庫補助事業の予算関係業務全般を担当していた。

本来ひょうきん者で周りを和ませる特技があったが、数年来の残業続きで疲労が蓄積していたためか、冗談の数が減り、あの人なつつこい笑顔が見られない日々も多くなっていた。

彼が長崎県の文化財保護行政上で残した功績は大きい。数十箇所にあつた発掘調査は勿論、各遺跡の報告書や論文の中で見せた鋭い分析を基礎とした論考は優れた研究者としての素質を十分に物語っていた。

福田氏の逝去にあたって、追悼論文集の計画は？との甲元先生をはじめとする多くの人から強い要望があり、同僚・友人などが集まり協議した結果、西海考古の特集号として「故福田一志氏追悼論文集」として発刊することとなった。

その実現のために、福田氏と交友があつた様々な方を中心にして、学術論文か思い出文の執筆をお願いしたところ、31編の学術論文と37編の思い出文執筆のご承諾を頂くこととなった。

当初、その論文は福田氏の3回忌に合わせる予定であったが、執筆者も多忙な中で予定通りに論文が集まらず、結局3回忌には間に合わなくなってしまった。その他事務局の怠慢もあつて、その期限を正確に守って執筆していただいた方々には誠に申し訳なく心からお詫び申し上げたい。今回収録した文は最終的には20の論文と17編の思い出文とならざるを得なくなった。折角の執筆のご意思であったが、編集時間などの関係で収録できない事態になったことも併せてお詫び申し上げたい。

ようやく出来上がったこの論文集を福田氏の墓前に謹んで献呈したい。

最後に、協力いただいた諸氏に心から感謝申し上げます。冒頭の挨拶としたい。

平成24年5月

故福田一志氏追悼論文集刊行発起人一同  
(文責 高野晋司)